



報道関係各位

国立がん研究センター 中央病院・東病院
「希少がんセンター」新設
日本における希少がん医療の課題解決を目指す

2014年6月27日
独立行政法人国立がん研究センター

独立行政法人国立がん研究センター（理事長：堀田知光、東京都中央区、略称：国がん）は、ナショナルセンターとして一般医療機関では取り組みがたい課題にも取り組んでいます。

その一環としてこの度、2014年6月23日に「希少がんセンター」を開設いたしました。診断や治療においてさまざまな問題を抱える希少がんについて、中央病院（東京都中央区）と東病院（千葉県柏市）が中心となり、さらに国立がん研究センター全部門とも連携する横断的な組織体制とすることで、診療・研究の推進を図り、日本における希少がん医療の課題解決を目指します。

【希少がんにおける現状課題】

希少がんは、数が少ないが故に、他のがんよりも不利な医療状況が生じています。その状況を改善する対策が求められており、本年制定されたがん研究10か年戦略においても重点研究領域とされました。

1. それぞれの希少がんの実情に応じた最適な治療体制が不明・未確立
（診療施設が分散、内科・外科の専門性が未分離など）
2. 正しい診断に基づいた適切な治療が受けられていない可能性
3. 新たな治療（薬）開発が遅れ、治療成績の向上が滞っている
4. 使用できる有効な抗がん剤・治療法が少ない
 - ・ 治療開発のための疾患のモデル（細胞・動物）が少ない
 - ・ 新薬開発に対するインセンティブも乏しい
 - ・ 臨床試験（治験）の迅速な実施が困難
 - ・ 日本だけで大規模臨床試験を実施することは現実的に困難
5. 病気に関する正確かつ最新の情報が入手困難

【希少がんセンターの概要】

1. 希少がんセンターの使命

- 希少がんに対する最新・最適な診療・研究が、国立がん研究センターにおいて迅速かつ適切に行われるよう中心的役割を果たす。
- 実際の希少がん診療を通してわが国における希少がん医療の問題点を明らかにし、希少がん対策を推進するとともに、自ら率先してその解決を目指す。

2. 希少がんセンターの活動目標

希少がん患者さんの健康と幸せのため、総力をあげて希少がんの克服に挑みます。

- 1) 希少がんの患者さんのための最良の医療を提供します。
- 2) 希少がん治療の未来を切り開く最先端の臨床・基礎研究を推進します。
- 3) 希少がんに対するモデルとなる医療を開拓します。
- 4) 希少がんの医療と研究の将来を担う人材を育成します。

肉腫(サルコーマ)グループ、脳脊髄腫瘍科、皮膚腫瘍科、眼腫瘍科など希少がん診療に携わる医師、放射線科医、病理医、基礎研究者、がん情報・政策担当者、看護師など多職種のメンバーが協力して、希少がんセンターの使命と活動目標を達成してゆきます。

3. 活動内容

- 1) 診療科の枠をこえた診療 院内ネットワーク, サルコーマ・カンファレンス
- 2) 情報発信 ホームページ
- 3) 情報提供・診療支援 希少がんホットライン
- 4) 研究開発支援 バイオバンク, 疾患モデル作成
- 5) 希少がんネットワークの構築
- 6) 患者団体との交流・支援

<対象とする腫瘍と機能>

対象: 肉腫(サルコーマ)、GIST(消化管間質腫瘍)、脳腫瘍、メラノーマ(悪性黒色腫)、眼腫瘍、小児がん、胚細胞性腫瘍(精巣、卵巣、性腺外)、その他の希少がん

機能: 病理診断、画像診断、外科治療、薬物治療、放射線治療、*IVR、*TR、臨床開発

*IVR(インターベンショナル・ラジオロジー): X線などを用いて体内を透視しつつ、僅かな切開から通した細い針などで病変の焼灼や薬物投与、狭窄部位の開通などを行う手法。がんに対する局所治療(動注化学療法、動脈塞栓化学療法、ラジオ波凝固療法など)に加え、症状緩和のための治療など、がんに関する様々な治療に用いられる。

*TR(トランスレーショナル・リサーチ): 基礎研究の成果を臨床現場に効果的に応用、実用化させるために基礎研究から臨床開発までを一体的に行う「橋渡し研究」のこと。

<希少がんホットライン>

希少がんの患者さんとそのご家族、医師、看護師、ソーシャルワーカーなど医療者の方々からのご相談をお受けしております。

TEL:03-3542-2511(大代表) 時間:平日 9:00~16:00

<お問い合わせ先>

独立行政法人国立がん研究センター 広報企画室

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL:03-3542-2511(代表) FAX:03-3542-2545

e-mail:ncc-admin@ncc.go.jp